

けんしゅうしましよ

道徳 主題名 気持ちのよい挨拶, 言葉遣い
 中心内容項目 B-(9) 主として人との関わりに関する
 こと(礼儀)
 資料名 いそいで いても
 2の1 授業者 永井

5月24日(金)2校時, 2の1に
 において提案授業が行われました。今年
 度の授業スタイルについて, 提案がな
 された授業となりました。



今後の道徳の授業作りに向けて

教材文を通し, 「気持ちのよい挨拶をすることで, 相手も自分も嬉しい気持ちになること」を理解し, 自分の生活に生かしていこうという気持ちを持たせる授業展開となりました。人数が多い学級ではありますが, 全員を話の土俵にあげたいという永井先生の授業の雰囲気伝わってきました。永井先生の授業を生かして, 今年度の研究授業を作り上げていきたいと思ひます。お忙しい中ありがとうございました。

1 問題意識をもたせる導入について

事前アンケートを生かし, 教材文の「失礼します」以外にも挨拶があるということに視点をもたせながら, 挨拶をすることの良さについて課題意識をもたせていた。この場面での児童の考えを予め, 取り上げたり, 個でノートに書かせたりすることによって, 終末での自分自身のことに結びつけて考えることにつながるのではないだろうか。

2 自我関与させる授業展開であるために

「急いで職員室に入る」のか「礼儀正しく挨拶をしてから職員室に入るのか」を対比させ, 理由を問うた。児童は, 主人公に自我関与させながら, 意欲的に自分の言葉で理由を語る姿が見られた。「もし, ○○だったら・・・」と主人公の立場になることを指示せずとも, 主人公の立ち場で思いを語る場面であった。こういった場面が, 授業の展開の中心になり, 共通解を導き出すための話し合いとなるだろう。

そうであるならば, やはり発問の精査は不可欠である。より少ない発問で多くの児童の発言が得られるような発問構成の工夫は, 今年度の課題である。

全体に広げる発問・全体を収束させる発問・個に返す発問か意図やねらいを明確にした発問構成。

3 生活とつなげる振り返りとなっていたか

挨拶の良さを「自分の気持ちの良さ」と押さえるのか「相手の気持ち」に気付かせるのかは, 児童の発達段階をしっかりと見極め, 吟味することが大切である。それにより, 切り返しの発問の仕方や児童の発言の取り上げ方も大きく変わるだろう。

展開後段において, 児童の良さやエピソードを紹介することで, 教材文で得た価値の良さを, 身近な生活場面で実感させることができている。様々な身近な場面に視野を広げ, その時の気持ちを話し合うことを通して, 自分なりの「納得解」につながるであろう。

今年度は, 「共通解」から「納得解」につながる場面の工夫, 「納得解」を一人一人が持つことができる授業の展開を目指したい。また, 得た「納得解」をどのような表現の仕方でもノートに記述させるのかを児童の発達段階に応じて明確化していく必要があるだろう。